



植物園は一般の公園と違います

植物園には、植物に関する記録文献を収集し、科学研究、保育、展示を通して、教育を行う施設という役割があります。

植物園の役割：

- 系統的な科学調査の研究と記録を通して、整理された植物保育情報を提供します。
- 幅広い植物の収集ならびに栽培を通して、植物の保育を行っています。
- 躍動感のある展示や啓発性のある教育を通して、一般の方の保育知識を強化させます。
- 国際的な植物園ネットワークを通して、グローバルな植物多様性の保育に取り組んでいます。



植物園自然保護国際機構 (Botanic Gardens Conservation International, BGCI) は1987年に設立され、現在では118カ国の700を超える植物園や植物研究機関が会員となっています。世界で最も大きな植物多様性の保育組織であり、国際三大エコ組織の一つでもあります。地球上の植物多様性の保育に取り組んでいて、地球上に存在する植物の1/3に対して、絶滅の危惧に脅かされないように務めています。台北植物園は台湾で初めての「植物園自然保護国際機構」に加盟するの植物園であり、各国の植物園と積極的に学術的な交流を行っています。



南門町三二三

台北植物園

Taipei Botanical Garden



開園時間

毎日午前五時より夜十時まで。年中無休。

アクセス

台北植物園の近くには、大型駐車場がありません。道端にも駐車できる場所が少ないですので、公共交通機関をご利用ください。

バスで行かれる方

(注：下記にある中国語のそれぞれの停留所名と路線名を対照しながらご利用ください)

- 1 植物園站：和平幹線、1、242、624、907、藍28
- 2 植物園站：204、630
- 3 三元街口：204、630
- 4 植物園站：242、624、907、和平幹線
- 5 建國中學(實小)：1、204、630
- 6 建國中學(歴史博物館)：1、204、630

MRTに乗られる方

捷運小南門站 (MRT小南門駅)：3番出口。博愛路 (通) の入口から入る。



発行者 | 黄裕星
 編集執筆 | 董景生、吳維修、鄭惠敏、張慧娟
 翻訳者 | 林玉英
 発行機関 | 行政院農業委員會林業試験所
 住所 | 台北市中正區南海路53號
 電話番号 | (02)23039978
 植物園のホームページ | tpbg.tfri.gov.tw



2015.03 出版



台湾ではじめての植物園

日本に統治されていた時、1896年に日本人が「台北苗圃」および母樹園を創建し、1921年に「台北植物園」と正式に名前を更新し、台湾ではじめての植物園となりました。1945年に第二次世界大戦が終わった後は、林業試験所が引継いで管理しています。百年以上の歴史を持つ、敷地面積が約8.2ヘクタールの台北植物園には、裸子植物区、シダ植物区、植物分類園区、民族植物区、水生植物区、蓮池区などのそれぞれテーマ展示区があります。集めた植物の種類は2,000種を超え、台湾における植物研究および教育の重要な場所となりました。

台北植物園の周辺は旧台北湖の遺跡です。古い湖が陸地化したあと、今から約4,500年前に、植物園のあたりで人間の活動が始まりました。そのため、植物園の地下から各時期の文化遺産が発見され、ここは台湾で重要な考古遺跡となりました。

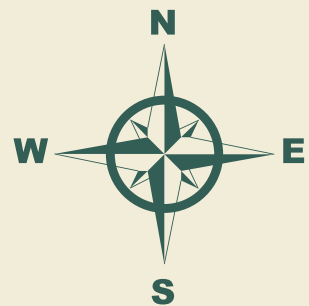


欽差行臺

腊葉館

植物園には二箇所の市指定の旧跡があります。一つは清朝の末期に建立された「欽差行臺」という閩南(ビン南)式の建物です。もともと、現在台北市中山堂のある場所に建っていましたが、1933年に植物園に移築され、一般の人々に公開されています。もう一つは、1924年に建立された「腊葉館」です。ここは台湾ではじめての植物標本館で、日本統治時代から集めていた植物標本があり、園内で植物園の歴史を感じさせる老木が時代の面影を偲ばせています。





- 主園路
- バリアフリー歩道
- 東屋 (休憩所)
- トイレ
- 水飲み場
- 案内所
- 入口

和平西路

南海路